二月号塾だより

発行
2022.1.22
編集
山口学習塾
山口将志
樋口淳一
矢田力椰
大崎拓己

今月号のトピックス

- 公立高校受験生、最後の追い込み
- 新年度のご案内
- 高校準備講座（私立高校進学予定者）
- その他お知らせ

新年度のご案内

3月1日（火）から2022年度の授業を開始します。次学年での授業となりますので、ご注意ください。
（例：現中２⇒3月1日からは中３）

☆３月から**新中３生（現中２生）の理社・国は火曜日に移動させていただきます。**ご了承ください。

＜新年度のお申込み＞
ご家庭に郵送しました**『新年度科目登録書』を2月18日（金）までに教室にご提出ください。**

新年度募集～中学生クラス予約開始～

新中学1年生　15名
新中学2年生　10名
新中学3年生　12名

お知り合いの方でご検討いただいている方がいらっしゃいましたら、お声がけいただければ幸いです。

高校準備講座（私立高校進学予定者）

1月の私立高校入試で進学先を決定された生徒たちの2月授業につきましてお知らせいたします。私立高校進学者は2月は高校準備講座に出ていただきます。（改めて申込などは必要ございません。）

〔日程〕
数学：2月3日（木）、10日（木）、17日（木）
英語：2月4日（金）、11日（金）、18日（金）

〔時間〕
20：30～22：00

〔受講費〕
数学・英語あわせて11,000円（税込）

〔内容〕
中学内容の復習＋基本的な高校内容を行います。

※私立高校進学予定者は**授業以外の自習については自由参加**です。
※私立高校進学予定者の学習教室は**旭町教室**になります。
※入試模擬テストを受験していただく回があります。予定日の前にご本人にお知らせいたします。

＜三学期期末テスト対策＞

☞1月27日（木）から2月28日（月）までは、中学生の三学期学年末テスト対策期間になります。

☞中学3年生もこの期間は受験対策期間として、定期テスト対策と同様に学習してもらいます。受験対策の課題を出していきますので、必死に最後の追い込みをしていきましょう。

☞中学3年生の最後の授業は2月23日です。面接がある生徒は2月24日の学力検査後にすぐに塾に来てください。最終の面接練習を行います。

公立受験生、最後の追い込み（五つの意識）

一．△を〇にする。

ここまで受験生のみなさんは、とにかく大量に勉強をして、ありったけの知識をひたすら身につけてきました。しかし、ここからは新しい知識、難しい内容を身につけようとする必要はありません。 みなさんが身につけてきた知識の中には、「どんな場合でも、どんな形で出題されても必ず解くことができる〇の知識」と、「何となく分かっているけど、たまに間違えてしまう△の知識」が混じっています。

ここから入試本番までの学習は、この△の知識を〇に変えていく作業が重要です。

受験生の中には、受験直前になって新しい問題集や、難しい問題をたくさんこなそうとする生徒がいます。しかし、この学習方法で身につく知識は△の知識であることがほとんどです。

△の知識は入試では役に立ちません。入試本番は非常に緊張します。時間にも追われます。そんな中で、何となくの△の知識はほとんどの場合、×の知識に変わります。

例えば、地理の工業地帯・地域を何となく覚えている生徒は、入試本番で「京浜工業地域」と答えてしまうかもしれません。しかし、これでは点になりません。「京浜とか京葉とか阪神とかは覚えているけど、地域、地帯は覚えてない。」ではいけないのです。

「京浜、中京、阪神の3つは地帯なんだ。」と確実な〇の知識を持っている生徒が点を伸ばすのです。 今から×の知識を△にしていくような勉強は効率がいいとは言えません。新しい知識を増やすのは時間がかかります。しかも点になりにくいのです。

それよりも、今持っている△の知識を探して、それを〇にしていく学習をしていきましょう。

冬休みにやった問題をもう一度見直しましょう。今までまとめたノートを見返しましょう。

「何となくやった覚えがあるけど、100％覚えているわけではないぞ。」という知識がたくさんあるはずです。一度、覚えた知識、理解した内容をもう一度自分のものにするのは、それほど時間はかからないはずです。

二．その場で覚えきる。

受験までまだ日があるときは、「いつか覚えればいいや。」でもある程度通用するかもしれません。夏に分からなくても秋がある、秋に分からなくても冬がある、そのときに分からなくても再び出題される可能性があったからです。

しかし、ここからはそれは通用しません。今日分からなかった問題を「いつか」と先延ばししたら、入試本番まで、その問題を目にすることがないかもしれないからです。先延ばしした問題に、残り一か月弱の勉強期間で触れない可能性の方が高いのです。分からないまま、一か月を過ごし、入試本番でそれが出題されたら間違いなく点を落とします。

「もし、この問題が入試本番で出題されたら･･･」

そういう危機感を持つことが重要です。

間違えた問題を直すだけで、まとめるだけで満足する期間は終わりました。直して、まとめて、「覚えきる」のが最後の追い込みです。

三．設問を集中して読むこと。

最後の追い込みのこの時期、もう一度基本に忠実になることが重要です。それは、普段の学習から設問を徹底的に集中して読むことです。

実は、入試で大きく合否を分けるのは、知識の量ではありません。なぜなら、知識の量や問題を解く力に歴然と差があるとしたら、その生徒はその学校を受験しないからです。

100～120の力が必要な学校に、70しか力がない生徒はもともと勝負をしないでしょう。逆に160くらいの力がある生徒は、志望校を1つ上げるのが普通です。

100～120の学校には、90～130くらいの実力の似通った生徒が入試に集まるのです。

そんな中で、勝負を分けるのはケアレスミスです。

当塾でも、これだけ入試直前になりながら、入試模擬テストで「記号で答えなさい。」という問題に用語で答えたり、解答欄を間違えて答えを書いてしまう生徒がまだいます。

「〇〇法の目的を答えなさい。」という設問に「〇〇法の内容」を答えたり、「～の課題は何か。」という設問に「～の対策」を答えたりしてしまうケースもまだ見られます。

当塾では、入試前に10回の入試模擬テストを行っています。その判定でしっかり結果が出ていれば、実力の面では、確実に合格圏に入っています。

しかし、120の実力をもっていても、入試本番で90の実力しか出せないのではいけないのです。120の実力を110～115くらいで出すためには、「設問を集中して読むこと。」という非常に基本的なことをもう一度意識する必要があるのです。

四．教科書を読むこと。

基本に忠実に、ということでもう一点あります。それは、学校の教科書を読むことです。

入試直前のこの時期、周りが問題集や過去問をたくさん解いているのを見て焦るかもしれません。しかし、新しい知識や難しい知識を必死に覚えようとすることが効率的でないことは先ほど触れました。それよりも、ずっと使ってきた教科書をもう一度大切に読みましょう。

公立高校の入試は、中学校の教科書の内容を超えては出題されません。裏を返せば、教科書に載っている内容であれば、何でも出題してよいのです。 上位の学校でさえ、入試で差を分けるのは誰も解けないような難しい問題ではありません。教科書に載っている基本的な内容なのです。

例えば昨年の埼玉県公立入試の理科で“関節”について記述で答える問題が出されました。「関節」と用語で答えさせる問題は他県の入試などで時々見ることはありましたが、関節に関して説明をさせる問題はなかなか珍しいな、と驚きました。しかし、教科書に載っているのであれば、どんな内容でも出題の可能性があるのです。

本文だけではなく、写真や資料も含めて、教科書を丁寧に読みこむ時間をぜひ作ってください。

五．焦っても、不安でも。

入試直前、焦るのが普通です。不安で当たり前です。それでいいのです。それを消すことは出来ません。しかし、それでも淡々と学習を進めましょう。それができてこそ結果を出せる強い受験生になれるのです。

そして、ここからは何より健康に気をつけてください。スマホなど眺めて夜更かしをすることのないようにお願いいたします。残り1か月、最後の1分まで大事に過ごしましょう。